

赤城山と過ごす

「赤城山」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？

遠くから眺める人、山を訪れて楽しむ人。赤城山は昔から多くの人の暮らしや記憶のそばにありました。文人たちが心をひかれた自然。長く人々を迎え入れてきた場所。そして今、新たに広がる楽しみ方。

赤城山と人とのつながりをたどりながら、改めてその魅力を紹介します。

文人が魅せられた赤城山

赤城山は与謝野晶子や高村光太郎などの、多くの文人たちが訪れた場所としても知られています。過去には県立土屋文明記念文学館で赤城山にまつわる作品やエピソードを紹介する企画展も開催されました。さまざまな作品の舞台となった赤城山について、企画展に携わった土屋文明記念文学館の吉田さんにお話を伺いました。

文豪が描いた赤城山



し が なおや
志賀 直哉

『城の崎にて』や『暗夜行路』を著した小説家。大正9年『焚火』を執筆
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

Q.赤城山を舞台にした作品について教えてください

多くの人の印象に残っているのは、志賀直哉の『焚火』でしょうか。志賀直哉は大正4年5月から9月までの間、妻の療養のために赤城山に滞在していました。

志賀直哉は「小説の神様」とも呼ばれ、彼を尊敬する文人や読者にとって赤城山は聖地巡礼の地となっているようです。

土屋文明記念文学館では、日本を代表する歌人・土屋文明の作品と生涯を紹介するとともに、群馬県ゆかりの文学資料の収集・紹介や、企画展の開催などを行っています。

企画展「今日も赤城が見える-風の山 文学紀行-」は上毛三山を取り上げる企画の第1弾として平成19年に開催しました。



県立土屋文明記念文学館
学芸員 吉田 佳代子さん



写真提供：前橋観光コンベンション協会

心を癒やす、赤城の自然

Q.明治期の赤城山はどのような場所だったのでしょうか

江戸時代は信仰を目的とした旅が中心でしたが、明治時代からは観光などを目的とする旅が盛んになったと考えられています。旅行案内などが出版されたことから、赤城山は東京から近い避暑地としても知られるようになりました。

また当時は「旅行に行くことが健康につながる」という考えがあったとも言われています。自然の中に身を置くことで、心を浄化させるという期待もあったのかもしれませんね。



写真提供：前橋観光コンベンション協会

文学者の足跡をたどって

Q.赤城山の魅力は何だと思いますか

私にとっては文学作品の生まれた雰囲気を感じられるところでしょうか。以前、当館で「赤城山頂文学散歩」というイベントを開催し、運営側として参加しました。赤城山には文学碑が15カ所設置されていて、イベントでは文学者の足跡を解説を交えて巡りました。実際に訪れたことで、より作品の世界観を味わうことができました。



多くの客人を迎えてきた人に聞く赤城山

明治8年に創業した青木旅館はこれまで150年以上の間、沼尻と呼ばれる大沼の湖畔で、赤城山を訪れる多くの人を迎えてきました。人々は何を求めて赤城山を訪れるのか。赤城山の魅力やお勧めの過ごし方を、青木旅館6代目で、赤城山観光連盟および赤城大沼漁業組合の会長も務める青木さんに伺いました。

「ぼーっとする時間」を求めて

Q.赤城山を訪れる人はどのように過ごしていますか

ランニングや登山をしたり、冬はワカサギ釣りや「スノーシュー」で雪上の散歩を楽しんだりしています。また都会の喧騒から離れて「ぼんやりするのがいい」とただ静かにのんびり過ごすことを好む人もいます。



変わる魅力、変わらない魅力

Q.昔と比べて赤城山はどのように変わりましたか。また赤城山の魅力は何だと思いますか

最近新しい施設ができたり、カヌーなどの「アクティビティ」も新たにできるようになったりして、若い人が増えてきているように感じます。

一方で、ありのままの自然が残っているのも赤城山の魅力だと思います。朝の澄んだ空気や鳥居峠から見える雲海、鍋割山から見える関東平野の夜景は格別です。

また大沼で冬場に見られる氷の世界は特別な景色です。ぜひ一度赤城山に足を運んでみてほしいですね。



青木旅館6代目
(赤城山観光連盟会長・赤城大沼漁業組合会長)
あおき やすたか
青木 泰孝さん



9月からワカサギ釣りを体験することができます
※氷上のワカサギ釣りは1月開始予定です
写真提供：前橋観光コンベンション協会

もっと、広がる赤城山



県では県立赤城公園の活性化を目指し、赤城山山頂周辺の施設整備を行っています。その1つが4月にオープンした「スノーピーク 赤城 キャンプフィールド」です。運営を担う店長の崎野さんに、赤城山ならではの魅力やお気に入りの過ごし方について伺いました。

Q.赤城山ならではの魅力は何だと思いますか

施設を利用した人からは「夏場でも涼しい」「爽やかで過ごしやすい」という声をよく聞きます。県外からのお客さんも多いのですが、東京から車で約2～3時間の場所でこれだけ涼しいのは、魅力ではないでしょうか。また多様な植物を楽しむことができるのも、赤城山のいいところだと思います。ミズナラなどの落葉広葉樹も多く、紅葉の時期も楽しみです。

Q.お気に入りの過ごし方を教えてください

湖畔を散歩した後、コーヒーをいれて飲む時間がお気に入りです。カメラで写真を撮ることも好きなので、冬の星空を撮影してみたいですね。

Q.これからの赤城山への思い

赤城山には訪れてこそ感じられる魅力がたくさんあります。私たちも赤城山を訪れるきっかけの1つになっていけたらと思います。



キャンプやバーベキューを楽しめます

9月19日(土)オープン!



赤城山に新たな観光施設「スノーピーク ランドステーション 赤城」がオープンしました。

観光案内を中心に、ストアやカフェ、会議室、シャワー室、コインロッカーなどを備え、観光客や登山者はもちろん、地域の皆さんも楽しめる施設です。

施設内のカフェではブランド豚「福豚」や地元食材を使ったホットドッグをはじめ、デザートやドリンクを味わうこともできます。

【営業時間】
ランドステーション：
午前9時～午後6時
カフェ：午前10時～
午後6時
※冬季は営業時間が
異なります
【定休日】水曜日
詳しくはこちら▶



あなたにとっての赤城山の魅力を 探しにいきませんか

登山やキャンプ、散策など、県立赤城公園の多彩な魅力を紹介する動画を県公式YouTubeチャンネル「tsulunots」で公開中です！



視聴はこちら▲

【注意】赤城山を訪れる際は、熊の出没情報を県ホームページなどでご確認のうえ、十分お気をつけてお越しください。